

本校の先輩達

学校給食開始

前後のお話



現在の学校生活において、給食はなくてはならないものになっていますが、本校で学校給食が始まったのは、昭和37年(1962)2月19日(月)のことでした。

当時、学校給食を開始するに当たっては、「銀飯の満腹が食生活における最良の道」であるとの考え方や、主食の米を自分の家で保有していらっしゃる農家が大部分を占める荘原において、給食費を払って昼食を準備することの意義(荘原での給食開始時は1食25円)を、保護者や地域の方々にていねいに説明し、理解していただくことが重要なことであったことが、資料からうかがえます。昭和34年7月発行の校報(22号)によれば、学校給食実施の必要性等が、次のように説明されています。

- ①白米の偏食を是正する
- ②合理的な食生活で心身の正常な発育を図る
 - ・発育時期の栄養は、一生を支配する
 - ・栄養の偏りは、頭脳や精神の発育に悪影響
 - ・改善された栄養が、本当の健康を保障する
- ③学校給食実施の効果(各地の実例から)
 - ・体が丈夫になり、病気や欠席が減少した。
 - ・健康・衛生・栄養に対する関心が高まった。
 - ・おやつをとることが少なくなった。
 - ・地域や家庭の食生活の改善により刺激となった。



給食室が新たに校門北側に建築され、学校給食開始の準備は全て整いました。

荘原小学校初めての学校給食の日、当時の児童は次のような作文を残しています。

2月19日から、給食が始まった。ぼくはうれしくてたまりません。1時間目から「早く食べたいなあ」と思いました。とうとう4時間目がすんだ。5年生の人は、みんな白いぼうしに白いエプロン、マスクをしてとてもきれいだった。先生が、「これが、かやくうどんですよ。」と言われたので、ぼくはそれを先に食べたら、本当にうまかった。いつもこんなうまいものだと思った。

「ぼくたちのきゅうしょく」2年 いけぶち まこと

学校給食開始までは弁当でしたが、昭和27年1月から「味噌汁給食」が冬季限定で実施されていました。1月から2月の1ヶ月間実施され、その期間「味噌汁給食労力奉仕」として、各自治会から男女1名ずつ、2～3自治会がその日の当番となります。当番の日は、朝9時にエプロン・手ぬぐい・弁当を持って学校へ集合。作業終了は午後3時頃だったようです。味噌汁給食に必要な野菜は、期間中に2回程度学年割当があり、持ち寄ります。味噌も、各家庭から160匁(約600g)持ち寄っていたようです。

【参考資料】 校報『荘原の教育』22号(昭和34年7月)33号(昭和37年3月)37号(昭和38年3月)60号(昭和43年12月)